

第9章 病診連携等推進対策

【現状と課題】

現 状

- 1 医療機関相互の連携
 - 軽症患者も病院を受診することで、患者にとって待ち時間が長くなるとともに、病院勤務医への負担となっています。
 - 圏域中央部における救急医療体制の確保のため市立半田病院と常滑市民病院との間に医療連携等協議会を作り協定を結び患者の紹介、逆紹介を行っています。病院においては、患者の紹介・逆紹介が実施されています。
市立半田病院における紹介率及び逆紹介率は、表9-1のとおりです。
- 2 病診連携システムの現状
 - 愛知県医療機能情報公表システム（平成25年度調査）によると、地域医療連携体制に関する窓口を実施している病院は当医療圏内19病院中12病院となっています。（表9-2）
 - 半田市医師会では、市立半田病院の内科、外科の医師と合同の勉強会を、知多郡医師会では支部単位で関係の医療機関と合同の勉強会を行っています。
 - 地域の歯科医師会（半田、東海市、知多郡）では、当医療圏内の6病院（国立長寿医療研究センター、市立半田病院、東海市民病院、知多市民病院、県あいち小児医療センター、常滑市民病院）の歯科及び歯科口腔外科と刈谷豊田総合病院、碧南市民病院の歯科口腔外科と歯科連絡協議会を開催しています。
 - 半田市医師会では、平成15年度から平成17年度まで厚生労働省の「医療機能分化推進事業」を実施し、その事業成果に基づき、市立半田病院、半田市医師会健康管理センターとの連携による検診データの共有化を行い、医療の質の向上及び医療提供体制の効率化を図っています。
 - 東浦町は、刈谷市と定住自立圏を形成しており、協定を締結した中で、刈谷豊田総合病院と診療所等の連携を強化することにより医療環境等の充実を図っています。
- 3 地域医療支援病院
 - 平成24年9月、市立半田病院が地域医療支援病院にされ、病診連携システムの中核となっています。

課 題

- いつでも、だれもが症状に応じた適切な医療を受けるためには、患者紹介システムを確立する必要があります。
- 医療機関相互の連携を推進するためには、さらに、患者紹介システムを確立する必要があります。
- 地域の医療機関の連携強化により、病院と診療所の機能分担を推進し、質の高い医療を効率的に提供するために、病床の開放、高度医療機器の共同利用や地域の開業医等に対する症例検討会の研修会の開放などを推進する必要があります。
- 歯科口腔外科を有する病院と歯科診療所の連携を今後も推進していく必要があります。
- 病診連携のメリットについて、知識の普及啓発を一層進める必要があります。

【今後の方策】

- 病院と診療所の機能分担と相互連携を一層推進します。
- 病院施設・設備の開放・共同利用、地域の開業医等に対する症例検討会の研修会の開放など、地域の医療機関が連携する仕組みづくりを推進します。

(参考図表)

表 9-1 市立半田病院における紹介率及び逆紹介率 (%)

	平成23年度	平成24年度
紹介率	63.2	63.5
逆紹介率	46.4	58.5

資料：市立半田病院

表 9-2 病診連携に取り組んでいる病院

圏域	病院数(a)	地域医療連携体制に関する窓口を設置している病院数 (b)	割合 (b/a)
当医療圏	19	12	63.2%
愛知県	325	220	67.7%

資料：愛知県医療機能情報公表システム (平成25年度)

病院数は平成25年10月1日現在